マレーシアにおける学術雑誌の拠点づくり
――グローバル化に向けたローカルの底上げ――

土佐美菜実

●はじめに

マレーシアにおける高等教育分野の目標をまとめた『高等教育戦略計画2020』が2007年に発表された。このなかで、国際競争力を身につけるために研究・出版における質の向上、インパクト・ファクターの高い査読つき雑誌への執筆の奨励・支援、国際雑誌に比肩しうる国内雑誌の強化があげられている（参考文献①）。多くの国がそうであるように、マレーシアもまたインパクト・ファクターの高い国際雑誌への投稿は大学評価とも結びついて奨励されてきた。その一方で、優れた研究成果を生み出すための地盤固めとして、国内雑誌の質の向上も国家の課題として認識されている。

●学術雑誌の情報拠点づくり

こうしたなか、2009年にイスラーム世界科学引用センターのセミナーがクアラルンプールで開催された。このセンターはイランを中心としたイスラーム圏の学術成果の発信に努めるネットワークで、使用言語の理由などから欧米の引用文献データベースからこぼれ落ちてしまう学術雑誌の普及を目的としている（参考文献②）。世界中のイスラーム諸国から構成されており、マレーシアもまたそのメンバーである。クアラルンプールのセミナーでは、マレーシア国内の大学、図書館、出版関係者より代表者が集まり、国内の学術成果を包括的に把握し、その普及に努める拠点づくりが提唱された。この背景には、そもそも国内で出版されている学術雑誌の全体像がほとんど把握されてこなかったという実情がある（参考文献⑤）。

このセミナーでの提唱を発端に、雑誌情報およびフルテキストデータの一元的な管理・公開、そしてそれらの情報に基づいた引用データの提供を担う機関として、マレーシア引用センター（Malaysia Citation Center：以下MCC）の設立が構想された。これにより、立ち上げに向けた特別委員会が組織される。委員会はトムソン・ロイター（現クラリベイト・アナリティクス）のインド・チェンナイ事務所や東南アジアにおける引用データベース作成の先駆けであるタイへの訪問、ワークショップの開催などを経て、MCCの設立を政府に提案した。これを受けて、高等教育省管轄下にMCCを設けることが決定し、2011年にその暫定部署がマラヤ大学コンピュータ科学部に置かれた。そしてMCCの具体的な役割の一つとして、国内で刊行されたすべての学術雑誌を網羅した引用文献データベースMalaysian Citation Index（通称MyCite）の構築が打ち出された。

●国際化に向けて

2012年に実施された調査から、マレーシアでは464誌の学術雑誌の存在が確認されている（参考文献⑤）。しかしMyCiteの構築にあたり、最初に収録できた雑誌はわずか75誌に限られた。その理由として、MyCiteで提供する引用データの正確さを担保するために、一つのタイトルに対して十分なデータが必要だったことがあげられる（例：少なくとも2006年から2011年まできちんと刊行しているもの）（参考文献⑥）。2017年3月時点では138誌のデータを検索することができる。

MyCiteで使用されている引用指標は、総被引用数やインパクト・ファクター、非自己引用数など、WoSやScopusのものをそのまま踏襲している。この他MyCiteでは学術雑誌の出版基準に関するガイドラインを提示しており、国内雑誌の出版に際してこの条件をクリアするように求めている。これもまた刊行頻度、刊行形態、査読、引用、英語での抄録といった出版の体裁や学術雑誌としての内容の適合性に関してWoSの基準と類似したものになっている。これには、国際

的に定着している指標・基準を適用することで国内雑誌をMyCiteだけでなく将来的にはWoSやScopusへの採録に繋げていく意図があり、ウェブサイト内でも明確にその狙いが記されている。このように、MCCの設立とMyCiteの構築には、学術成果の可視化と雑誌評価の普及を通じた国内の学術研究レベルの国際化が見据えられている。

さて、MyCiteは引用文献データベースとして2つの機能を有している。一つは雑誌の書誌情報および各論文への全文アクセスである。これは書誌情報と各論文の全文データを管理する文献データベースMyJournalへ繋がり閲覧する仕組みになっている。検索窓にキーワードを入力するという今日では多くの人が見慣れている形式で雑誌または論文を探すことができる。また各雑誌の基本的な書誌情報だけでなく、当該雑誌に関する問い合わせ先や投稿のガイドラインも参照することが可能だ。

もう一つの機能は引用データなどの指標情報の提供である。先に述べたとおり、この情報にはWoSとScopusに倣った各引用指標が集計されている。収録タイトル数は現在も限定的だが、タイトルごとの情報が見やすくまとめられている。

●おわりに

『高等教育戦略計画2020』から8年後の2015年に『マレーシア教育計画 2015-2025』が発表された。これによると、2007年から2012年の間に国内の大学で発表された学術論文数は3倍に跳ね上がり、これは世界で最も多い増加と記されている。また、引用数も2005年から2012年の間で4倍に増えたという。また当面の目標として、2025年までにクアレリ・シモンズ社による世界大学ランキング（QSランキング）でアジア・トップ25に1校、世界トップ100に1校、さらに世界トップ200に4校をランクインさせることが掲げられた（参考文献③）。今後も引用データを用いた学術評価の潮流に乗っていく方針のようだ。

2017年2月の時点で、WoSにはマレーシアで刊行されている雑誌が13誌収録されており、このうち人文学または社会科学分野の雑誌は3誌のみである。これに対して、MyCiteでは収録雑誌138誌のうち人文学カテゴリーを付与している雑誌が33誌、社会科学分野が67誌である（1タイトルにつき複数付与されている場合もある）。収録雑誌の約半数が人文学または社会科学分野に関連した雑誌であるということになる。また、MyCiteにはマレーシア語論文はもちろんのこと、アラビア語論文も含まれており、言語の壁を越えた学術成果の可視化が進められている。昨今では研究領域や使用言語、地域性のあるテーマなど、科学研究における多様性に鑑みて引用データに基づいた評価への偏重には注意が促されている。そのなかで、国際的な評価方法への順応と自国の学術雑誌のレベルアップに向けてどのような舵を取っていくのか、今後も議論が必要になりそうである。

（とさ　みなみ／アジア経済研究所　図書館）

《参考文献》

① Kementerian Pengajian Tinggi Malaysia, *Pelan Strategik Pengajian Tinggi Negara Melangkaui Tahun 2020*, Kementerian Pengajian Tinggi Malaysia, 2007.

② Mehrad, J and Naseri M., “The Islamic World Science Citation Center: A New Scientometrics System for Evaluating Research Performance in OIC Region,” *International Journal of Information Science and Management*, Vol. 8, No. 2, 2010, pp.1-10.

③ Ministry of Education Malaysia, *Malaysia Education Blueprint 2015-2025 (Higher Education)*, Ministry of Education Malaysia, 2015.

④ Pusat Sitasi Malaysia, *Prestasi Jurnal Malaysia dalam MyCite: 2012*, 2013.

⑤ Zainab, A.N., Sanni, S.A., Edzan, N. N., Koh, A.P., “Auditing Scholarly Journals Published in Malaysia and Assessing Their Visibility,” *Malaysian Journal of Library & Information Science*, Vol.17, No.1, 2012, pp.65-92.

⑥ Zainab, A.N., “Adding Value to Malaysian Scholarly Journals through MyCite, Malaysian Citation Indexing System,” In *Proceeding: International Conference on Journal Citation Systems in Asia Pacific Countries*, 22 May 2012, Pan Pacific KLIA, Malaysia. Putrajaya: Malaysian Citation Centre, Ministry of Higher Education, pp.1-16.

⑦ Malaysia Citation Index（http://www.mycite.my/）.